

都城医療センター

基本理念 <高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします。>

都城医療センターは、宮崎県南西部の都城市位置しており、都城市北諸県郡を中心とした宮崎県、曾於市をはじめとする鹿児島県の両県が診療圏内になります。また、地域医療支援病院として地域の医療機関と連携し、入院病床数307床の中規模医療機関として、高度の急性期総合医療を行っています。2005年に「地域がん診療連携拠点病院」に認定され、2008年には「周産期母子医療センター」に指定され、特にがん診療と周産期および小児・新生児医療の重要な役割を担っています。

また、薬剤部ではチーム医療を推進し他職種と連携しながら、医療現場で必要とされる取り組み、事前合意プロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）等による医師をはじめとする医療スタッフのタスクシェア、タスクシフトに繋がる取り組み等活動範囲を広げ、患者さんに「安心安全な薬物治療」を提供できるよう取り組んでいます。

【施設概要】 2023. 7. 1（データは2022年度実績）

1. 所在地 〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町 5033-1
2. 特徴 地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、
地域医療支援病院、地域小児科センター
病院機能評価<3rdG:Ver. 2.0>一般病院2認定
3. 診療科 16診療科
内科、消化器内科、循環器内科、皮膚科、呼吸器科、小児科、外科
整形外科、リウマチ科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、放射線科
歯科・口腔外科、麻酔科、神経内科
病床数 305床（一般）；5病棟
4. 薬剤師数（定数：14名） 薬剤部長1名、副薬剤部長1名、主任5名、薬剤師7名、助手4名
5. 主な業務
(ア)調剤 入院 43,205枚/年、外来 103,310枚/年（院外処方率93.7%）
(イ)注射 入院 145,513枚/年、外来 15,978枚/年
(ウ)薬剤管理指導件数 4,153件/年（346件/月）
(エ)無菌製剤処理料 I：5,449件/年（うち閉鎖式使用243件/年）、II：2,000件/年
(オ)外来化学療法関係 外来腫瘍化学療法診療料1：2,166件/年
外来化学療法加算1（15歳以上）：315/年
(カ)病棟薬剤業務 実施（実施病棟数 1：4病棟 2：1病棟）
(キ)がん患者指導管理料ハ 35件/年
(ク)プレアボイド報告 120件/年
(ケ)チーム活動 ICT（感染対策防止加算1）、NST（栄養サポートチーム加算）
AST（抗菌薬適正使用支援加算）
6. 特徴的な業務 各病棟2名の専任薬剤師を配置し、積極的に薬物療法へ参画し、
病棟薬剤業務実施加算（NICUにおける加算2含む）取得
地域がん診療連携拠点病院としてがん薬物療法への積極的な介入
（令和5年10月より連携充実加算算定開始）

7. 2022年度の取り組み 長期休暇取得者に伴う欠員（1名～3名）状況下での業務維持
- ・病棟薬剤業務実施加算取得継続
 - ・部内情報共有、事例共有の徹底
 - ・業務の適正化、効率化

8. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	○
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	○

病院目標

1. 患者の意思を尊重し、信頼される診療を目指す
2. 健全かつ安定した経営基盤に基づき、診療・教育・臨床研究を推進する
3. 各種専門職が連携・協力しやすい診療体制の構築を進める
4. 改正感染症法に対応した地域医療を進めていく
5. 不測の災害時においても持続可能な診療体制を構築する

薬剤部目標：最良最適な薬物療法の提供と経営基盤確立に向けた取り組み

1. 最良最適な薬物療法の提供と医療安全への取り組み
 - 1) 薬物療法への積極的関与と見える化
 - 病棟薬剤業務の充実、薬剤師外来/外来化学療法室との連携
 - 他職種からのタスクシフト/タスクシェア、プレアボイド優良事例報告増
 - 2) 医療安全への取り組み
 - 調剤誤り防止対策/再発防止対策の徹底、部内情報共有の徹底、手順書整備
 - 3) 電子カルテ更新に向けた対応
 - ・薬品適正使用、多職種連携、業務効率を踏まえた運用の検討
2. 経営基盤確立への取り組み
 - 1) 薬剤部業務による診療報酬上の収益確保
 - 病棟薬剤業務実施加算の維持、薬剤管理指導件数の確保
 - 診療報酬改定項目の算定に向けての検討、体制整備、連携充実加算算定に向けた取り組み
 - 2) 医薬品購入費削減に向けての継続的な取り組み
 - 供給状況を踏まえた後発医薬品/バイオ後続品への切り替え
3. 働き方改革の推進
 - 業務適正化、業務効率化に向けた検討・実践、年次休暇の取得促進、超過勤務の削減、適正化
4. 教育・研修の充実に向けて
 - 臨床研究の実施、学会発表、論文投稿、資格取得の推進及び教育体制の整備
 - 実務実習生の受入継続と研修内容の充実、
5. 薬薬連携の強化
 - 地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院としての取り組み